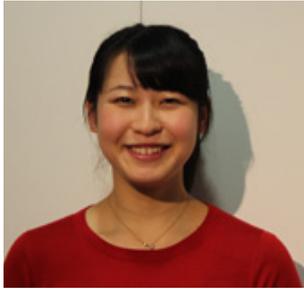


東京女子大学 現代教養学部 人間科学科 コミュニケーション専攻

現代教養学部の目的は広い識見と創造性を有し、教養人として現代社会の多様な課題を解決できる人材の育成です。人間科学科コミュニケーション専攻では、現代社会の諸問題をコミュニケーションの視点で分析。複雑な人間と社会を捉える多面的な力を養います。



■大学生
小松由季さん



■先生
李 津娥先生



■卒業生
大町美沙さん

CONTENTS

- プロフィール
- 5年後に向けて
- 大学生活について
- 高校生へのアドバイス
- 就職活動、仕事について

●プロフィール

コミュニケーション専攻における先生の研究分野を教えてください。



■先生

テレビ、新聞、インターネット、SNS などをはじめとした、あらゆるマスメディアから発信される、さまざまな情報コンテンツとそれを受け取る人や社会との関わりを研究しています。例えばテレビからは日々多くのCMが流れています。なにげなく見ているわずか15秒ほどの映像コンテンツですが、実はそこにはCMの広告主である企業のビジネス戦略や企業メッセージがしっかりと込められています。

これらのCMをはじめとした多岐にわたるマスメディアから発信される情報とイメージがさまざまな意思決定や価値判断にどのように影響を与えるかを、メディア心理学の視点からデータに基づいて紐

解いていきます。

テレビCMや広告を研究するということですか？

■先生

テレビCMや広告などは、「このCMで伝えている商品は、こういう家族構成や年代層に向けてアピールしている、それを効果的に伝えるために家族ドラマのような表現にしている。」というように、わかりやすい研究対象のひとつとしてありますが、それ以外にも企業の広報活動に関するものや、ここ数年で飛躍的に拡大したSNSの技術や仕組みをつかったクチコミマーケティングなども有意義な研究対象としてあります。そもそもコミュニケーションとは、人と人、人と社会、あるいは企業と社会、日本と国際社会というように、時に複雑ともなる関係をつなぐ上で必要不可欠な「技術」や「言語」のようなものだと捉えています。この専攻では、そんなコミュニケーションの真理に近づいていくことを学びの目的として据えているのが最大の特徴ですね。

カリキュラムにおける特徴はありますか？

■先生

コミュニケーションを紐解くとき、これが完璧な正解というものはありません。どちらかというところ、いろいろな解釈ができる分野でもありますから、メディア、情報、文化など、多角的な視点からあらゆるコミュニケーションのあり方に迫っていきます。私の研究分野を例にすると、CMは消費者心理にどう作用するか？日本と海外を比較した場合、コミュニケーションにどんな差があるか？女性向けの表現やCMの場合、なぜそれが女性の心理に働きかけるのか？などを、多角的に分析していきます。

なるほど。そうすると講義はディスカッションが主となるものもあるのでしょうか。

■大学生

そうですね、演習科目は少人数が基本、学生同士が意見を出し合い、議論を重ねていきます。時に自分が思っていたものとは、真逆の意見が出るときもあり、「そんな着眼点もあるんだ」と驚くことも少なくありません。

■先生

学生によっていろいろな視点があることは、教える側としても興味深いですね。とはいえ、主観や仮説だけで判断しては、結論としては客観性にかかけます。そこで、当専攻では、調査の仕方から、データの集め方、複数の事実を掛け合わせながら分析をする、研究スキルそのものも丁寧に指導しています。

■卒業生

ケースによっては統計学を活用します。最初は数字にちょっと抵抗があったけれど、何度もデータを見ていくことで次第に慣れることができますね。

では、お二人が人間科学科コミュニケーション専攻を選んだ理由を教えてください。



■大学生

もともとマスメディアに興味があり、それに関する学部を探していました。東京女子大学なら、さまざまな方法や角度からマスメディアの世界と関わることができること知り、そこに魅力を感じたので決めました。あとはオープンキャンパスに訪れたときの印象もよかった。「こんなにキレイな大学なら、学生生活も楽しいかも」と（笑）。高校の恩師からは、東京女子大学は有名だし、英語教育などについても豊富

な実績があるから良いのではとの評価をいただいたことも大きかったですね。

■卒業生

私もほぼ同じ理由ですね。マスメディアやコミュニケーションを、深く知ってみたいと思ったのです。

●大学生活について

印象に残っている講座や授業について教えてください

■大学生

そうですね。いくつもあって選べないですね…（笑）。とりわけ思い出深いのは「情報社会と女性の職業」というもの。2年次から4年次までが、協力し合いながらひとつのテーマに沿って考えをまとめ、発表していく授業でした。

■卒業生

どんなテーマに取り組んだのですか？

■大学生

テーマはその都度変わっていて、わたしが取り組んだ時のテーマは「高校生に東京女子大学をもっと知ってもらうためには」というもの。大学のことを何も知らない高校生に向けてどのような情報を発信していけば、大学の魅力を伝えられるかを徹底的に考えていきました。広報課の方や学部長に取材もさせていただいたんですよ。

■卒業生

へえー面白そう。なんかマスコミっぽいですね（笑）。

■先生

実はこの授業は、コミュニケーションの技術を自らで習得するという意味でも、大変意義のある時間なんですね。というのも、現在、世の中にあるマスメディアの表現やコミュニケーションを理解するだけでなく、自分たちの知識や経験に基づいて合理的なコミュニケーションの手段を考えていくからです。「知識を実践的に使いこなす力」や「考えて発信する力」が授業を通じて自然と養えると思います。

そういった体験は社会に出た後も役立ちそうですね。

■先生

大いに役立つと思います。どんな仕事であれ、現状を知り、課題や解決策を導き、それを行動や発言という形で表に出していくことは変わらないと思うからです。理解、分析、発信というコミュニケーションの基礎を身につけておけば、社会に出た後もそのスキルを応用しながらいろいろな場面で活躍のチャンスを得ることができますからね。

■大学生

もうひとつ、コミュニケーション専攻っぽいなと思ったのは、李先生の「広告コミュニケーション論」です。

■先生

まあありがとうございます。お役に立ててなによりです（笑）。

■大学生

車の広告を例にしたケースがとくに印象的でした。今は若者の車離れが進んでいる。そんな中で「車のデザイン」「車の利便性」などを訴求して、購買意欲を高めるのはとても難しい。そこである自動車メーカーが打ち出した手法が「まずは免許を取ろう」という、車を所有することよりも、もっと前の段階からアプローチしたコミュニケーションだったのです。

■先生

その事例について言うと、車という題材であっても、切り口を変えることで新しい価値を提供できる好例だと思いますね。例えばそれが海外だったら？その他のメッセージに置き換えるとしたら何か？CMとコミュニケーションの関係はとっても奥が深いんですよ。

■大学生

■卒業生

よくわかります！（笑）

英語教育にも力を注いでいると伺いましたが、そこについてはいかがでしょうか？

■先生

それについては専攻というよりも学校全体のスタンスになりますが、「使える英語を養い、国際的な舞台上で活躍する女性を育てる」ことも、大きな教育目標のひとつとしてあります。1年次の必修英語

6科目のうち、4科目はネイティブスピーカーが担当、2年次からは、さらに英語の活用を学ぶ科目が増えてきます。英語圏で話されている言葉や風土、文化に触れながら、語学力を磨くものとして国際交流の機会もたくさん用意されています。そういえば、小松さんはイギリスでの研修に参加していたよね。

■大学生

はい。2014年の夏、1カ月ほどイギリスのケンブリッジ大学ヒューズホールに行かせていただきました。

■卒業生

1カ月、どんなことをして過ごしたんですか？

■大学生

「ケンブリッジ教養講座」という本学の研修プログラムで渡英したのですが、現地の学生と一緒にになって、さまざまな課題に取り組んでいきました。現地ではサポート役のスタッフがいて滞在中も丁寧にフォローしてくれたので、活動に集中できました。あっという間のひと月でしたね。



■卒業生

英語力がグーンと上がったのでは？

■大学生

うーんそれはどうでしょうね(笑)。このプログラム自体が、英語力をアップさせることが目的でなく、講義・演習・レポート作成を全て英語でやって、ケンブリッジ大学という異国の大学そのものを体験することだったから。とはいえ、毎日英語漬けだったから、自然と語学力はアップしているかも。

■先生

政治家、文化人、学者などの要人を多く輩出しているイギリスの名門大学で学べるチャンスはなかなかないため「ケンブリッジ教育講座」は毎年希望者が殺到する人気の講座です。ケンブリッジ大学ヒューズホールは、本学の二代目の学長である「安井てつ」が若いときに留学をし、校長のエリザベス・ヒューズと親交を深めた歴史的関係のある場所です。このように諸外国の文化に触れるものとして、アメリカ、イギリス、スペイン、中国などで、語学修得と同時に、異文化や現地の人たちと触れ合う「夏期語学研修」などもあります。学生だからこそ視野を広げておきたい、世界の現状を見てみたいという向上心溢れる学生たちの参加が目立っているようですね。

●就職活動、仕事について

この春から社会人ですね。お仕事について教えてください。

■卒業生

JA への就職が無事決まりました。

■先生

おめでとうございます。立派な社会人になれるようがんばってくださいね。

■卒業生

ありがとうございます。最初は支店に配属されることが決まっています。導入研修を終えたら、お客様からのお問い合わせに対応する窓口業務を担当します。あとは広報にまつわる業務にも参加する予定です。実際に働きはじめてから、覚えることや乗り越えることも多いと思いますが、初心を忘れずにがんばりたいと思います！

なぜJAを選ばれたのですか？

マスメディアとはずいぶん分野が違うようにも感じるのですが。

■卒業生

それについては、友達からもよく聞かれます(笑)。確かに最初はマスコミの世界を目指していました。特に興味関心があったのはテレビドラマの制作で、昔からドラマが好きで、観るだけでなく、作る側として活躍したいと思っていました。ところがある時、アルバイトを通じて、ドラマ制作の裏側を知ることになったのです。そこで感じたのが自分のやりたいことはこれじゃないな、という思いでした。

■大学生

理想と現実のギャップに直面したということですか？

■卒業生

そうとも言えますね。将来どうしようかと、自分のやりたいことが定まらない中、将来の選択肢を決めるヒントは大学で開催された企業説明会にあったのです。半信半疑でいくつかの会社から事業や仕事についての説明を受けたのですが、ある分野の業界に特に興味を覚えたのです。

■大学生

どんな業界ですか？広告代理店とかですか？

■卒業生

いえ、実は金融業界だったのです。それも地方銀行のような地域に密着して事業を行う組織ですね。

採用担当の方にお話を伺ったのですが、「同じ金融業界でも規模が大きな組織だと、数字での判断が主体となり、向き合うお客様の顔はなかなか見えなくなってしまう。一方、われわれのような地域密着によって成り立つ組織は、お客様一人ひとりとの距離を大切にしている」といった言葉にとっても感銘を受けたんです。

■先生

人と接点を持つ仕事に自分の未来像を重ねたのかしら？

■卒業生

そうだと思います。いろいろ考えた結果、私がやってみたいのは、地域に密着しながら多くの人と関わりをもてる仕事だったんですね。

コミュニケーション専攻で身につけたことは役立ちそうですか？



■卒業生

まだわかりませんが、役立つ部分は多いと思いますね。もともと総合職での採用ですから、2～3年ほど窓口業務で実績を積んだら総務や人事、広報部などに移動する可能性もあります。もし、そんな機会に恵まれることになった場合は、お客様からお寄せいただいた声から潜在的なニーズを導いたり、お客様の年代やライフスタイルを考慮した効率的な情報発信の手段を考えるなど、学生時代の経験と知識を発揮できる場面もあると思います。

■先生

マスメディアの世界から学んだコミュニケーションスキルで地域貢献、とても素晴らしい目標だと思います。その情熱を忘れずに取り組んでくださいね。

卒業生はどのような業界で活躍をしていますか？

■先生

彼女のように金融業界を志望する学生は多いです。もともと本学は金融や保険業界に強い部分もありまして、毎年たくさんの学生がその道に進みます。その他の産業としては情報通信産業も目立っています。

マスメディア関連、例えばアナウンサーを目指す生徒も多いですか？

■先生

実績としてはありますが、数としてはそれほど多くないですね。繰り返しになるかもしれませんが、マスメディアはあくまで研究テーマのひとつでしかありません。最終的に学生たちの礎となるのは、さまざまな情報を読み解く力や合理的なコミュニケーションを描き出す力です。これらの力は、広報

や販促などの仕事については直接的に活用できることは言うまでもありませんが、もし、営業職についてとしても相手に合わせたコミュニケーションで成果をあげる。開発職やマーケティング職であれば、データ収集や分析の経験が役立つはずです。語学についても同様です。語学力があれば、世界を舞台にした場合も、恐れることなくチャレンジができるのです。

つまりコミュニケーションを学ぶことは、未来の選択肢を広げるということなんですね。

■先生

そうっていいでしょうね。メディア、情報、文化にかかわるコミュニケーションなど幅広く学びながら、自らの未来の可能性を探っていくことも本学なら可能だと思います。

■卒業生

未来の可能性という言葉が出ましたが、実際、学生の知識や経験だけでは、就職活動の随所で困ってしまうこともありました。そんな時ほどキャリア・センターの存在が心強かったです。専攻ごとに複数名のスタッフがいて、キャリア形成や資格に関する相談、エントリーシートの書き方から、自己PRの仕方までを丁寧にフォローしてくれました。私は普通だと思っていましたが、他の大学の友人に、東京女子大学のサポート体制について話すと大体驚きますね。就職活動にシフトしはじめる3年次の時は、いろいろな部分でナーバスになるし、限られた時間をできるだけ大切にしたいと思うのはみんな共通だと思います。そんな時だからこそ、すぐに対応してくれる存在は本当にありがたかったですね。

● 5年後に向けて

これから先、どんなことにチャレンジをしようと思っていますか？

■大学生

大学図書館のボランティアスタッフ、広報活動のお手伝い、学内でのアルバイト。サークル活動は登山サークルと国際ボランティアサークルに所属。いろいろなことにチャレンジしながら忙しい日々を送っているので、5年先よりもまずは今日の一日を大切に過ごすことのほうが大事かも（笑）。無事、卒業したら、地元の長崎に戻って地域貢献にまつわる仕事に就くのもいいかなと思っています。

■先生

小松さんの行動力には先生方も感心していますよ。貴重な学生時代を存分に楽しんでくださいね。もちろん勉強もちゃんとしつつお願いしますね（笑）。

■大学生

もちろんです！がんばります！

■卒業生

わたしは社会人としてそろそろ後輩もできている頃、立派な先輩になりたいですね。就業前ですから、先のことはまだまだわかりませんが、当面の目標は職場の先輩や上司の指導を仰ぎながら、仕事を覚えると同時に社会人としてのマナーを身につけることです。あまり偉そうなことを言うのは恥ずかしいですが、いずれは地域のみなさんから顔や名前を覚えていただき、信頼される人になりたいですね。

■先生

一生懸命に頑張っている姿は、きっと誰かが見えています。その積み重ねが信頼につながっていきますから、失敗を恐れずにどんどん前に向かって行ってくださいね。

■大学生

そういう先生の5年後の目標はなんですか？

■卒業生

とても興味があります。ぜひ教えてください。

■先生

研究対象としてこれからもっと力をかけていきたいのは「メディアと政治」の分野ですね。冒頭にもお話したように、SNSが爆発的に普及しているように、メディアの種類は多様化しています。これによって、いままで情報の受け手だった側が簡単に情報を発信する側にもなれます。そんな情報化社会だからこそ、メディアと政治の関係はもっと興味深いものになると考えています。若い世代が政治に関心を持つには、どんなメディアが関わり、どのようなコミュニケーションの姿を描けば良いのか？を模索したいと思っています。それに関連して、政治の世界への女性進出にかかわる分野にも興味を持っていますが、これは、女子大で教えているということと、大学のスタンスであるリベラル・アーツ教育の概念にも少し影響を受けているかもしれません。

リベラル・アーツ教育とはどういうことでしょうか？

■先生

専門分野の修得と同時に、多様な分野の科目を学ぶことにより、自由な心と幅広い視野を育む教育のことを意味しています。自立したひとりの人間あるいは女性として、社会で立派に活躍する「専門性を持つ教養人」を育てることを目標にしています。お二人もどうか、社会に貢献できる女性になれるようがんばってくださいね。

■大学生

■卒業生

はい！たくさんの経験を積んで先生のような素敵な女性になれるようがんばっていきますね！

■先生

どうもありがとう。期待していますよ。

●高校生へのアドバイス

高校生たちへのアドバイスやメッセージをお願いします。

■大学生

私の高校時代の経験からアドバイスできることは、いろんな分野に目を向けて活動をしておいたほうが良いということですね。今になって振り返ってみると、私は高校時代、放送部の部長や生徒会などでも活動をしていたのですが、そこで関わった友人や先生方からは、授業では学べない知識や経験を得ることができました。高校時代はたったの3年間。本当にあっという間に過ぎていきますから、毎日を大切に過ごして欲しいですね。



■卒業生

私からは「視野を広げるトレーニング」をオススメします。トレーニングといっても決して難しいことではなく、何かニュースを見たときに、海外ではどうなんだろう？この出来事は社会にどんな影響をもたらすだろうか？といったように、思考の枠を少しだけ広げてあげるだけでいいんです。

■先生

それはいいアイデアですね。ひとつの事実をいろいろな方向から見ることがつきそうですね。

■卒業生

その通りなんです。大学では、いろいろな事実やデータと向き合いつつ、研究を進めていきますから、柔軟な思考力があるときっと役立つと思います。

■先生

進路選択や就職活動のときも、ひとつのことだけで判断せず、いろいろな情報を集め、もっとも最適な道を選ぶ時も思考の柔軟さが大切ですね。

私からのアドバイスもお二人と似ていますね。付け加えるとしたら、情報と向き合う時は、いくつかのメディアで比較して欲しいということです。スマートフォンを操れば、即座に世界経済や政治、カルチャーをはじめとしたあらゆる情報が手に入ります。とても便利ではあるものの、それに書かれているわずかな数行の記事だけで、全てを知った気持ちになるのは理解としてはまだまだ不十分。同じニュースを、テレビのコメンテーターはどう言っているか？新聞ではどのように論じられているか、さらに掘り下げると新聞各社の見解はどう違うか？を比較した上で、自分の意見を持てるようにすると良いと思います。

最後になりますが、東京女子大学の魅力を教えてください。

■先生

社会のあらゆる場所、企業などで、活躍ができる知識と経験を身につけると同時に、人間性も磨くことができる部分ですね。

■大学生

先生、キャンパスが素敵なことも付け加えさせてください。広々した敷地には四季折々の自然の風景がひろがっていて、学生たちの日々ちょっとした癒しをくれます。キャンパス内にはチャペルがあって、卒業生が結婚式をあげることもあるんですよ。

■卒業生

私からは立地についてプラスアルファです。こだわりの店が多い西荻窪と不動の人気を誇る吉祥寺。二つの街が日常の生活圏となることには、友達もうらやましいと言っていますね。

■先生

広告物やイベントなど、街では、いろいろなコミュニケーションの姿と出会うことができますから、新しい情報の姿やスタイルに触れるといった部分では、とても恵まれた場所でしょうね。人間科学科コミュニケーション専攻で学ぶコミュニケーションのスキルは、仕事のみならず、人と人とのつながりにおいても役立つものとなります。キャンパスライフを楽しみつつも、広く学びそして知識を高め、じっくりと自分の未来像を探す4年間を過ごしてみてくださいね。

●インタビューに答えてくれた方々



■先生
李津娥先生



■卒業生
大町美沙さん



■大学生
小松由季さん